

鈴木董教授 略歴・主要著作目録

平成24年 3 月

鈴木董教授 略歴

昭和22年9月19日 神奈川県藤沢市にて出生

学歴・職歴

昭和35年3月	藤沢市立大道小学校卒業
昭和38年3月	藤沢市立第一中学校卒業
昭和41年3月	神奈川県立湘南高等学校卒業
昭和41年4月	東京大学文科一類入学
昭和43年4月	東京大学法学部第三類（政治コース）進学
昭和45年3月	同 卒業
昭和45年4月	東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程修士課程進学
昭和47年3月	同 修了 法学修士号取得
昭和47年4月	東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程進学
昭和47年9月	トルコ国奨学金留学生としてトルコ国立イスタンブル大学文学部留学
昭和50年9月	帰国 復学
昭和54年4月	日本学術振興会奨励研究員
昭和55年4月	立教大学法学部助手
昭和57年3月	同 退職
昭和57年4月	千葉大学法経学部、同人文学部、同教養部、東海大学文学部、専修大学法学部等非常勤講師

昭和57年9月 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程修了
法学博士号取得

昭和58年4月 東京大学東洋文化研究所助教授

平成3年7月 同 教授

平成24年3月 定年により退職

非常勤講師

東京大学法学部，東京大学文学部，東京大学教養学部，京都大学法学部，神戸大学文学部，北海道大学法学部，千葉大学法経学部，千葉大学人文学部，千葉大学教養部，静岡大学人文学部，筑波大学，大阪外国語大学外国語学部，横浜国立大学大学院国際文化研究科，慶応義塾大学文学部，慶応義塾大学法学部，東海大学文学部，明治学院大学一般教育部，専修大学法学部，専修大学文学部，上智大学外国語学部，成蹊大学法学部，青山学院大学，東京女子大学文理学部

客員その他

平成8年～9年 トルコ国立イスタンブール大学文学部客員教授

平成9年 トルコ国立エルジエス大学文理学部客員教授

受賞・名誉学位

平成20年 トルコ国財団法人トルコ文化奉仕財団トルコ世界トルコ言語功労
賞受賞

平成21年 キルギス・トルコ・マナス大学（在キルギス共和国）より名誉博
士号を授与される

鈴木董教授 主要著作目録

1. 著書（単著）

『オスマン帝国——イスラム世界の「柔らかい専制」』講談社（講談社現代新書 1097），1992年4月20日，254頁。

『図説イスタンブール歴史散歩』河出書房新社，127 + 1 頁，1993年6月15日，写真 大村次郷氏。

『オスマン帝国の権力とエリート』東京大学出版会，1993年6月30日，xiii + 260頁。

『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』リプロポート，1993年7月30日，255 + 2 頁。

『食はイスタンブールにあり——君府名物考』NTT 出版，1995年7月5日，7 + 246頁。

『オスマン帝国とイスラム世界』東京大学出版会，1997年8月25日，240頁。

『オスマン帝国の解体——文化世界と国民国家』筑摩書房（ちくま新書242），2000年5月20日，238頁。

『トルコ』（世界の食文化9）農山漁村文化協会，2003年10月23日，8 + 292頁。

『ナショナリズムとイスラムの共存』千倉書房，2007年12月16日，13 + 269頁。

（『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』（リプロポート 1993年刊）の改題新序附新装版）

2. 共編著

共編著『フランス革命と周辺国家（歴史と社会12）』リプロポート，1992年6月20日，291頁。

共編著『イスラームの世界史』全3巻，講談社，第1巻『都市の文明イスラーム』（佐藤次高と共編，257頁，1993年9月20日），第2巻『パクス・イスラミカの世紀』（単独編集，273頁，1993年10月20日），第3巻『イスラーム復興はなるか』（坂本勉と共編，270頁，1993年11月20日）。

編著『中東人国記』総合法令，1994年7月14日，x + 277頁。

共著『地歴高等地図——現代世界とその歴史的背景 最新版』帝国書院編集部（編），帝国書院，1997年3月15日，144頁。

編著『トルコ（アジア読本）』河出書房新社，2000年10月25日，294頁。

共編著『カフカース——二つの文明が交差する境界』彩流社，2006年11月30日，354頁。

編著『東洋文化』91（特集 オスマン帝国史の諸問題），東京大学東洋文化研究所・東洋学会，2011年3月31日，309頁

編著『オスマン帝国史の諸相』東京大学東洋文化研究所叢刊第26輯，東京大学東洋文化研究所・山川出版社，2012年3月25日刊行予定

3. 監修

共同監修『図説ユニバーサル世界史資料 最新版』帝国書院編集部（編），帝国書院，1997年3月25日，240頁。

監修・共同執筆，NHK・NHK プロモーション（編）『トルコ三大文明展 ヒッタイト帝国・ビザンツ帝国・オスマン帝国 *Three Great Civilizations in Turkey: The Hittite Empire, Byzantine Empire and Ottoman Empire*』NHK・NHK プロモーション，2003年，229頁。

監修・共同執筆『イスタンブール歴史紀行——トプカプ宮殿の至宝展——オスマン帝国を彩った女性たち』, 朝日新聞社・東映, 2007年, 219頁。

4. 監訳・翻訳監修

監修, テレーズ・ビタール著, 富樫環子訳『オスマン帝国の栄光 (知の再発見 双書51)』 創元社, 1995年11月10日, 276頁。

日本版監修, J. M. ロバーツ著, 金原由紀子訳『世界の歴史』第6巻『近代ヨーロッパ文明の成立』 創元社, 2003年6月20日, 276頁。

監訳, ジョン・フリーリ著, 長縄忠 (訳)『イスタンブール——三つの顔をもつ帝都』 NTT 出版, 2005年1月31日, 398頁。

5. 学位論文

「オスマン・トルコ政治エリート変遷史序説——最盛期の集権体制とカプクル・エリート」 東京大学大学院法学政治学研究科修士論文, 未刊, 1971年12月提出, 1972年3月法学修士号授与。

「オスマン・トルコ支配エリートの研究——回暦700-1200年」 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程博士論文, 未刊, 1982年3月提出, 1982年9月29日法学博士号授与。

6. 論文

「オスマン・トルコ社会思想の一側面——有機体的社会観の展開」 日本イスラム協会『イスラム世界』 第14号, 1978年7月15日, 1-21頁。

「中東イスラム世界に於ける国際体系の伝統と西洋の衝撃」 日本国際政治学会『国際政治 (国際関係思想)』 第69号, 1981年10月28日, 93-107頁。

「イスラム時代」 史学会『史学雑誌 (1982年の歴史学界——回顧と展望)』 第92編第5号, 1983年5月15日, 260-264頁。

「現代中東における共存様式の崩壊と国際紛争——キプロス紛争を中心として」
日本国際政治学会『国際政治（中東：1970年代の政治変動）』第73号，
1983年5月25日，44-63頁。

「軍事・行政制度——オスマン帝国の場合」中近東文化センター『中近東文化
センター研究会報告（シンポジウム「アラブとアジャム（非アラブ）」』第
4号，1983年12月31日，153-167頁。

「トルコ——発展と連合政治の危機」宮治一雄編『中東の開発と統合』アジア
経済研究所，1985年3月30日，187-205頁。

「トルコの国際秩序観」広島大学平和科学研究センター編『IPSHU 研究報告（イ
スラム世界と国際秩序——第9回広島大学平和科学シンポジウムの記録）』
第13号，1985年10月，1-18頁。

「権力構造と『家』——オスマン帝国の場合」中近東文化センター『中近東文
化センター研究会報告（中近東・イスラーム社会における族的結合）』第
6号，1985年12月25日，99-112頁。

「官僚の世界」佐藤次高編『講座イスラム3——イスラム・社会のシステム』
筑摩書房，1986年4月15日，79-106頁。

「征服と都市建設——オスマン帝国1300-1481年」地中海学会『地中海学研究（協
同研究 地中海都市の文化構造）』第9号，1986年5月31日，15-22頁。

「オスマン帝国の統治機構——比較史的分析」梅棹忠夫・松原正毅編『統治機
構の文明学』中央公論社，1986年6月20日，299-337頁。

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（一）」東京大学東洋文化
研究所『東洋文化研究所紀要』第101冊，1986年11月25日，1-71頁。

「18世紀初頭オスマン帝国の遣欧使節制度と『使節の書』——ウィーン派遣大使
シラフタール・イブラヒム・パシャの事例」東京大学東洋文化研究所・東
洋学会『東洋文化』第67号，1987年3月30日，251-279頁。

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（二）」東京大学東洋文化

研究所『東洋文化研究所紀要』第103冊，1987年3月31日，1-79頁。

「セリム1世の対マムルーク朝遠征と征服地における支配体制組織化の過程——トプカプ宮殿附属古文書館所蔵D9772号文書の再検討によせて」『オリエント』第30巻第1号，1987年9月30日，90-107頁。

「中東における統合と共存の伝統とその変容についての一省察——オスマン帝国のケースを中心として」『国際政治』第8巻第86号，1987年10月24日，39-53頁。

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（三）」東京大学東洋文化研究所『東洋文化研究所紀要』第106冊，1988年3月31日，35-94頁。

「トルコにおける『国民国家』形成とアイデンティティーの変容」『外交時報（特集 エスニックの視点）』第1253号，1988年11月10日，36-44頁。

「イスラム国際体系」有賀貞・宇野重昭・木戸蓊・山本吉宣・渡辺昭夫編『国際政治の理論（講座国際政治1）』東京大学出版会，1989年9月25日，81-111頁。

「バルカン史におけるオスマン朝史料の意義」『東欧史研究』第12号，1989年12月25日，87-92頁。

「『近代軍』形成期のオスマン帝国における軍人と政治——1826-1908年」『政治学年報 近代化過程における政軍関係』1989年度，1990年3月29日，187-209頁。

「都市における『対抗運動』と比較イスラム都市社会論」昭和63年——平成元年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書『イスラム都市社会の形成と変容に関する比較研究』1990年3月，123-133頁。

「オスマン帝国と対外的コミュニケーション」濱下武志編『移動と交流（世界史への問い 第3巻）』岩波書店，1990年4月5日，55-84頁。

「18世紀初頭オスマン朝の一官人の経歴について——パリ派遣大使イルミセキズ・チェレビィ・メフメット・エフェンディの場合」日本オリエント学会

編『日本オリエント学会創立35周年記念オリエント学論集』刀水書房、1990年7月25日、273-294頁。

「帝都からメガロポリスへ：近代イスタンブルの1世紀半1826-1990」文部省科学研究費重点領域研究「イスラムの都市性」事務局編『「イスラムの都市性」全体集会報告書』第三書館、1991年9月1日、88-98頁。

「チューリップ時代のイスタンブルにおける詩人と泉——18世紀初頭オスマン朝の都市文化の一側面」東京大学東洋文化研究所・東洋学会『東洋文化（特集 都市からみたアジア）』第72号、1992年3月26日、235-252頁。

「後期オスマン帝国における没落観と改革論」東京大学東洋文化研究所『東洋文化研究所紀要』第118冊、1992年3月27日、193-265頁。

「オスマン帝国とフランス革命——イスラム世界と近代西欧世界の同時代的接触のひとこま」田中治男・木村雅昭・鈴木董編『フランス革命と周辺国家（歴史と社会12）』リプロポート、1992年6月20日、59-106頁。

「イスラム帝国としてのオスマン帝国」『国際交流』第61号、1993年4月30日、60-68頁。

「イスラム世界におけるアイデンティティの構造」原洋之介編、財団法人産業研究所、委託先 社団法人アジア社会問題研究所『対外政策の国際調整の調査研究』4-6『アジア諸国の宗教・社会と経済発展に関する調査研究』1993年5月、54-64頁。

「帝都イスタンブルとオスマン権力」板垣雄三・後藤明編『学振新書16イスラムの都市性』日本学術振興会、1993年6月29日、260-278頁。

「オスマン語をめぐる——多言語帝国としてのオスマン帝国と言語的共存」三田史学会『史学』第63巻第3号、1994年3月、81-89頁。

「多民族国家の光と影——アメリカ合衆国とオスマン帝国と『常識のアメリカ・歴史のアメリカ』合評会に関連して」『アメリカ史研究』第17号、1994年8月23日、21-25頁。

- 「パクス・イスラミカからバベルの塔へ——イスラーム的世界秩序の崩壊と現代」日本国際問題研究所『国際問題』第411号, 1994年6月1日, 18-29頁。
- 「伝統的オスマン社会における奴隷の諸相」『歴史学研究 (増刊号)』第664号, 1994年10月25日, 13-20頁。
- 「組織と支配——後期イスラーム帝国オスマン朝の場合」後藤明編『講座イスラーム世界2 文明としてのイスラーム』栄光教育文化研究所, 1994年12月10日, 138-182頁。
- 「イスラムと国際関係」平野健一郎編『講座現代アジア4 地域システムと国際関係』東京大学出版会, 1994年12月20日, 327-358頁。
- 「『文明の衝突』か『文化の葛藤』か」外交時報社『外交時報 (特集「文明の衝突」と世界秩序)』第1314号, 1995年1月10日, 20-29頁。
- 「世界秩序・政治単位・支配組織——比較のなかの後期イスラム帝国としてのオスマン帝国」東京大学東洋文化研究所『東洋文化』第75号, 1995年2月28日, 167-216頁。
- 「イスラーム的世界秩序の崩壊と現代の地域紛争」財団法人日本国際問題研究所『イスラームと地域紛争 (平成6年度自主研究報告書)』1995年3月, 21-31頁。
- 「パクス・イスラミカから現代世界へ」小杉泰編『イスラームに何がおきているか——現代世界とイスラーム復興』平凡社, 1996年1月18日, 42-63頁。
- 「ブローデルの『地中海』と「イスラムの海」としての地中海の視点」川勝平太編『海から見た歴史——ブローデル『地中海』を読む』藤原書店, 1996年3月30日, 33-67頁。
- 「オスマン帝国の政治的統合における宗教と民族」『思想「民族と国家」』第863号, 岩波書店, 1996年5月5日, 134-153頁。
- 「イスラーム暦千年を迎えるオスマン社会」蓮實重彦・山内昌之編『地中海・終末論の誘惑』東京大学出版会, 1996年9月20日, 100-114頁。

- 「多様性と開放性の帝国——オスマン帝国」山内昌之・増田一夫・村田雄二郎編『帝国とは何か』岩波書店、1997年2月26日、155-180頁。
- 「オスマン帝国と地域研究」『特定研究「地域研究のための方法論的課題に関する研究」報告書2』発行年月日記載なし（1997年）、43頁。
- 「オスマン帝国史と地域研究」池田修監修、大阪外国語大学特定研究プロジェクトチーム編著『世界地域学への招待——大学院への研究案内』嵯峨野書院、1998年1月25日、415-436頁。
- 「イスラム帝国の交渉行動——オスマン帝国の場合」木村汎編『国際交渉学——交渉行動様式の国際比較——』勁草書房、1998年2月25日、214-232頁。
- 「イスラーム帝国としてのオスマン帝国」『岩波講座世界歴史』第5巻、岩波書店、1998年9月18日、269-296頁。
- 「政治過程と政策決定過程の歴史の変容——オスマン朝史から宋代史への比較史の一視点」『アジア遊学』第7号、1999年8月20日、103-110頁。
- 「オスマン帝国とヨーロッパ」近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年9月19日、186-196頁。
- 「オスマン帝国における君主の『家』と権力」笠谷和比古編『公家と武家Ⅱ『家の比較文明史的考察』思文閣、1999年11月1日、470-493頁。
- 「イスラム世界秩序とその変容——世界秩序の比較史への一視点」『東アジア近代史（特集・アジアにおける近代国際法）』第3号、ゆまに書房、2000年3月31日、1-20頁。
- 「前近代オスマン帝国の支配組織の構造」『人民の歴史学』147、東京歴史科学研究会、2001年4月6日、12-23頁。
- 「コーランとイスラーム」「西アジア世界では」「イスラームについての印刷術」凸版印刷株式会社・印刷博物誌編集委員会編『印刷博物誌』2001年6月4日、360-362、434-437、438-439頁。
- 「オスマン帝国の成り立ち」伊藤貞夫・樺山紘一（編）『地域文化研究1——地

- 『地中海世界の歴史像』放送大学教育振興会，2002年3月20日，178-191頁。
- 「イスラムの共存のシステム」伊藤貞夫・樺山紘一（編）『地域文化研究 1——地中海世界の歴史像』放送大学教育振興会，2002年3月20日，192-206頁。
- 「帝国の異文化集団支配——オスマン帝国の場合（内から外から）」『岩波講座 天皇と王権を考える 2 統治と権力』岩波書店，2002年6月14日，297-320頁。
- 「オスマン帝国の重層性（西アジアにおける国家と重層性）」松原正毅・後藤明（編）『西アジア社会の重層的構造』国立民族学博物館地域研究企画交流センター，2003年3月31日，123-134頁。
- 「イスラームの共存システムの過去と現在」慶應義塾大学地域研究センター（編）『21世紀とイスラーム：その多様性と現代的課題』慶應義塾大学出版会，2003年9月30日，143-181頁。
- 「オスマンの家産官僚制とティマール体制（Session 4：封建制度と官僚制度）」笠谷和比古（編）『公家と武家——その比較文明史的研究』国際日本文化研究センター，2004年1月30日，275-284頁。
- 「オスマン帝国時代」桜井万里子（編）『ギリシア史』（新版世界各国史17）山川出版社，2005年3月10日，215-270頁。
- 「オスマンの官僚制とティマール制」笠谷和比古編『国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史』思文閣，2005年8月24日，348-363頁。
- 「フランス革命とオスマン帝国」：「フランス革命とヨーロッパ・アジアの近代化」第2号，大学院社会知性開発研究センター，2005年3月1日，80-95頁
- 「トルコのEU加盟（特集：新しいヨーロッパ）」『アステイオン』67，阪急コミュニケーションズ：アステイオン編集委員会，2007年11月29日，63-79頁。
- 「後期イスラム世界における紙と書物」『アジア古籍保全講演会記録集』——第1回～第3回（平成17-平成19年），東京大学東洋文化研究所，2008年3月

31日, 265-278頁。

「伝統と近代の間で——トルコ史600年を往還する (1. トルコの歴史と文化——歴史と現在)」『トルコとは何か』藤原書店, 2008年5月30日, 50-66頁。

「比較文明論 (文明と文化) (イスラームの時空間——歴史, 文明, 地域) (研究案内)」小杉泰・林佳世子・東長靖 (編)『イスラーム世界研究マニュアル』, 名古屋大学出版会, 2008年7月10日, 190-194頁。

「序文 (特集: オスマン帝国史の諸問題)」『東洋文化』91 東京大学東洋文化研究所・東洋学会, 2011年3月31日, 1-3頁。

「パシャたちの変貌——比較史から見た最末期オスマン朝の支配エリートの若干の特徴 (第3部 「西洋化」改革から共和国へ) (特集: オスマン帝国史の諸問題)」『東洋文化』91, 東京大学東洋文化研究所・東洋学会, 2011年3月31日, 197-218頁。

「本邦におけるオスマン史研究史私観」鈴木董編『オスマン帝国史の諸相』東京大学東洋文化研究所叢刊第26輯, 東京大学東洋文化研究所・山川出版社, 2012年3月25日刊行予定

「近代オスマン帝国の外交網の拡大過程——文化世界と近代西欧国際体系への参入の型についての比較史的考察 明治日本と清末中国との対比において」鈴木董編『オスマン帝国史の諸相』東京大学東洋文化研究所叢刊第26輯, 東京大学東洋文化研究所・山川出版社, 2012年3月25日刊行予定。

7. 小論文・随想その他

「活版印刷術と東地中海世界」地中海学会『地中海学会月報』第7号, 1978年2月, 8頁。

「近代トルコ散文学の黎明」『月刊シルクロード』第4巻第5号, 1978年6月1日, 34-37頁。

「一冊のテキストと一冊の辞書と」松本重治監修, 板垣雄三編『中東ハンドブッ

ク』1978年11月30日，379-381頁。

「中東問題の底流にあるもの——トルコのケースを中心に」通産省通商政策局
総務課内通商政策研究会編『月刊貿易政策』第248号，1980年2月1日，
20-24頁。

「表紙説明・都市の古地図シリーズ10オスマン・トルコ人の見たマルセイユ」
地中海学会『地中海学会月報』第30号，1980年5月，2頁。

「月例研究会要旨 オスマン・トルコにおける国家の興亡観」『地中海学会月報』
第35号，1980年12月，6頁。

「トルコに於ける議会制的伝統とその危機」中東調査会『中東通報』第276号，
1981年5月10日，44-49頁。

「トルコ文学とフランス文学」地中海学会『地中海学会月報』第53号，1982年
10月，6頁。

「後期オスマン帝国における支配エリートの変容について——実務官僚層の『台
頭』の問題を中心に」『82史学会第八十回大会プログラム』1982年11月14日，
16-17頁。

「オスマン・トルコのエリートについて」『日本オリエント学会第24回大会研究
発表要旨』1982年11月21日，2-8頁。

「後期オスマン帝国における支配エリートの変容について——実務官僚層の『台
頭』の問題を中心に」『史学雑誌』第91編第12号，1982年12月20日，84頁。

「オスマン帝国の古都ブルサ」『レポートくまがい』第72号，1983年3月，1-2頁。

「オスマン帝国におけるイスラム的世界帝国の完成」1983年度総合科目『中東
イスタム世界の政治的伝統』千葉大学教養部，1983年4月，5-7頁。

「トルコのクーデター」日本国際問題研究所『国際年報』第21巻（1979-80年版），
1985年3月31日，516-523頁。

「史上最強オスマン帝国」牟田口義郎編『世界の戦争3 イスラムの戦争』講談社，
1985年6月26日，319-355頁。

- 「第9回地中海学会大会シンポジウム発表要旨 イスタンブルと江戸と——二つの古都の対比をめぐって」『地中海学会月報』第85号、1985年12月、3頁。
- 「イスタンブルのスレイマニエ図書館について」『図書館の窓（東京大学附属図書館月報）』第25巻第1号、1986年1月1日、1-3頁。
- 「前近代オスマン帝国における軍人と軍隊の変遷過程」『日本中東学会第三回年次大会プログラム』1987年4月、5頁。
- 「オスマン帝国とビザンツ帝国の戦い」『歴史読本特別増刊号 戦争の世界史』新人物往来社、1987年4月5日、86-89頁。
- 「世紀末オスマン文化の仕掛人——アフメット・イフサン・ベイのこと」トルコ文化研究会編『トルコ文化研究』第2号、1987年10月31日、21-25頁。
- 「西アジアの近代化——オスマン帝国の滅亡」『週刊朝日百科日本の歴史』第110号、通巻638号、1988年5月29日、344-347頁。
- 「後期オスマン朝におけるイエニチェリ軍団上層部の昇進過程について」『昭和63年度東洋史研究会大会発表要旨』1988年11月3日、7頁。
- 「後期オスマン朝におけるイエニチェリ軍団上層部の昇進過程について」『東洋史研究』第47巻第3号、1988年12月31日、164頁。
- 「オスマン帝国の帝都イスタンブルをめぐって」『イスラムの都市性・研究報告』第9号、1989年9月15日、18-24頁。
- 「実務家と政治家の間——オスマン帝国の官僚たち」『週刊朝日百科世界の歴史』第47号、通巻716号、1989年10月15日、302-303頁。
- 「スレイマン1世」『週刊朝日百科世界の歴史』第68号、通巻739号、1990年3月18日、434-439頁。
- 「イスラム帝国の戦争と平和——オスマン帝国と近代西欧国際体系」『週刊朝日百科世界の歴史』第77号、通巻748号、1990年5月20日、490-494頁。
- 「古都ブルサ——オスマン帝国の最初の首都」地中海学会編『地中海文化の旅』第2巻、河出書房新社、1990年6月4日、124-128頁。（『くまがいレポート』

(1983年)より転載)。

「イブラヒム・パシャの時代」『週刊朝日百科世界の歴史』第88号，通巻759号，1990年8月5日，564-567頁。

「イスラーム世界の書物と図書館」地中海文化研究会『Mare Nostrum（地中海文化研究報告）』第4巻，1992年3月31日，34-42頁。

「地中海人物夜話詩人ネディム」地中海学会『地中海学会月報』第149号，1992年4月，4頁。

「世界戦史再現——1453年オスマン帝国 vs ビザンツ帝国「コンスタンティノープル陥落——ビザンツ帝国千年の帝都最期の日」」『歴史群像』創刊号，学習研究社，1992年6月1日，43-51頁，イラスト 香川元太郎氏。

「祝祭と革命のイスタンブール——オスマンの歴史が展開された広場」『週刊朝日百科世界の歴史別冊』『旅の世界史——広場物語8』第8巻，通巻859号，朝日新聞社，1992年6月5日，18-23頁。

「オスマン帝国の政治システムとその衰退」『高校通信 東書 日本史/世界史』第186号，東京書籍，1992年9月1日，1-3頁。

「表紙説明・地中海の肖像「メフメット2世」」地中海学会『地中海学会月報』第152号，1992年9月，2頁。

「歴史書紹介著者紹介 注目の一冊その人に聴く3「世界史を複眼的に描く鈴木董『オスマン帝国』」」『歴史群像』第3号，学習研究社，1992年10月1日，153頁，取材・文 遠藤隆氏。

「帝都イスタンブールとオスマン権力」日本学術振興会『学術月報』第45巻第10号，1992年10月15日，1014-1020（62-67）頁。

「民族の都10トルコ・イスタンブール「アジアとヨーロッパの交差点」」PHP研究所『Voice ボイス』1992年10月号，1992年10月1日，13-16頁。

「表紙説明・地中海の肖像「スレイマン大帝」」地中海学会『地中海学会月報』第153号，1992年10月，2頁。

「世界の博物館 Süleymaniye Library——イスタンブル」『東京大学総合資料館
ニュース』第26号，1992年11月16日，6-7頁。

「表紙説明・地中海の肖像「アフメット3世」」地中海学会『地中海学会月報』
第154号，1992年11月，2頁。

「表紙説明・地中海の肖像「セリム3世」」地中海学会『地中海学会月報』第
155号，1992年12月，2頁。

「『情報化』時代と図書資料」『東京大学新聞』第1779号通巻第2879号，1992年
12月22日，2頁。

「スレイマン大帝——16世紀の地中海世界とオスマン帝国」日本トルコ文化協
会『Köprü 通信』第10巻1992年秋号，1992年秋，2頁。

「レパントの海戦」『歴史群像』第5号，1993年2月1日，67-82頁。

「イスラムの世界秩序と共存問題」『創文』第346号，創文社，1993年8月1日，
11-14頁。

「オスマン帝国史の窓から——多民族の“共存”が伝統の時代も」『聖教新聞』
第11088号，1993年8月31日（火），第7面。

「ライター横顔：『イスラムの家からバベルの塔へ』鈴木董さん」「旧ユーゴ
の民族紛争を新しい視点から明かす」『東京新聞』第18352号，1993年9月
3日（金）夕刊，第4面，『中日新聞』と同時掲載，取材・文 安藤氏。

「第17回地中海学会大会シンポジウム要旨：大航海時代の地中海」地中海学会
『地中海学会月報』第162号，1993年9月，4頁。

「オスマン帝国とビザンツ帝国の戦い」『別冊歴史読本特別増刊総集編世界の戦
史』第18巻第31号，1993年10月28日，89-95頁（『歴史読本特別増刊号戦争
の世界史』1987年の再録）。

「トルコ：第4回シンポジウム『わが国はアジア諸国の社会と経済にどのよう
にして共存していくべきか——アジア諸文明との共存のパラダイムを求め
て』」社団法人アジア社会問題研究所（東京）『アジアと日本』第239号，

1993年12月1日, 23-27 (全433) 頁。

「イスラム世界・オスマン帝国・世界地図——イスラム世界の歴史を理解するための地歴科地図帳の効用」帝国書院『世界史のしおり (特集——世界史と地図帳——その2) 1994年2月15日, 1-4頁。

「中東から見た世界史——「三大陸」が交流した開かれた地域: “イスラームの衝撃” に対抗した西欧の形成」『聖教新聞』第11275号, 1994年3月15日 (火), 第7面。

「シルケジ駅——トルコの近代化の歩みと国際政治」国際協力事業団『国際協力』1994年4月号, 1994年4月1日, 28-29頁。

「イスラム世界と民族問題」『第21回栃木オリエント・セミナー』1994年(5月), 6頁。

「伝統的オスマン社会における奴隷の諸相 (1994年度大会報告要旨全体会「歴史における奴隷包摂社会」)」『歴史学研究』第658号, 1994年5月15日, 34-35頁。

「チャルディランの戦い——半世紀前の長篠の合戦」『歴史群像』学習研究社, 第13号, 1994年6月1日, 120-127頁。

「イスタンブールの夏」朝日カルチャーセンター『CULTURE』第238号, 1994年7月1日, 5-6頁。

「ロードス島戦記」『歴史群像』学習研究社, 第14号, 1994年8月1日, 14-24頁。

「外世界から・イスラーム世界」文部省科学研究費補助金重点領域研究・「総合的地域研究」総括班事務局『総合的地域研究成果報告シリーズ3 文明の地域性』第3号, 1994年9月30日, 42-46頁。

「知られざる軍事先進国オスマン帝国の実力——ヨーロッパ諸国を震撼させた『イスラムの衝撃』」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ近代編」』第3巻, 学習研究社, 1995年10月1日, 96-103頁。

「オスマン帝国——帝都を二度までも包囲した異教の大国」『歴史群像 (「双頭

の驚——ハプスブルク帝国のすべて——』』学習研究社、第22号、1995年12月1日、30-35頁。

「良薬は口に甘し——オスマン宮廷における甘味所と調薬——」ポーラ文化研究所『Is』第70号、1995年12月10日、15-19頁。

「バザールの世界史上の意義」国立民族学博物館監修、財団法人千里文化財団発行『季刊民族学』第20巻第1号、1996年1月20日、38-45頁。

「イスタンブルの食の世界」地中海学会『地中海学会月報』第186号、1996年1月、5頁。

「学会展望——1995年——西アジア・アフリカ」日本政治学会編『年報政治学』1996年、岩波書店、1996年12月10日、287頁。

「知られざるイスラム芸術の本流——『イスラム書道芸術大鑑』に寄せて」『月刊百科』平凡社、第414号、1997年4月1日、36-40頁。

「栄華残照——トルコ・トプカプ宮殿博物館の至宝」『ミセス』文化出版局、第507号、1997年5月7日、143-145頁。

「コンスタンティノポリス陥落——オスマン帝国 vs ビザンツ帝国1453年ヨーロッパ最大の城塞が大砲に屈した日」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ城郭編」』第5巻、学習研究社、1997年6月5日、174-181頁。

「ウィーン包囲戦——オスマン帝国 vs ハプスブルク帝国1683年イスラムの侵攻を食い止めた近代要塞の実力——」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ城郭編」』第5巻、学習研究社、1997年6月5日、182-189頁。

「イスタンブルの食文化史 Part1-2」日本トルコ協会『季刊アナトリアニュース』第88・89号、1997年7月・9月、26-29頁、25-28頁。

「オスマン帝国の言語問題」『月刊言語「特集・地中海文明と言語——交錯する物とことば」』第27巻第10号、1998年10月1日、68-73頁。

「オスマン帝国とその遺産——中東・バルカンと宗教紛争」『大航海——歴史・文学・思想』第29号、1999年8月5日、72-80頁。

- 「オスマン帝国のチューリップ時代」地中海学会『地中海学会月報』第222号，
1999年9月，4頁。
- 「文字と文化世界」『創文』第415号，1999年11月1日，6-9頁。
- 「イスタンブル物語 パートⅠ」日本トルコ協会『アナトリアニュース』第98号，
2000年2月，7-10頁。
- 「巻頭言・中東の近代と日本の近代——比較史の必要性について」『現代の中東』
第28号，2000年3月15日，i頁。
- 「君府菜時記（1）羊肉と乳の文化」『世界史のしおり』第8号，帝国書院，
2000年4月10日，13-14頁。
- 「君府菜時記（2）甘味と砂糖」『世界史のしおり』第9号，帝国書院，2000年
6月10日，13-14頁。
- 「共存モデルを求めて——オスマン帝国とイスラム世界と」筑摩書房『ちくま』
第352号，2000年7月1日，20-21頁。
- 「オスマンの平和——宗教を軸にして多文化共存の大地」『聖教新聞』13570号，
2000年10月8日，第8面。
- 「君府菜時記（3）香料」『世界史のしおり』第10号，2001年1月25日，11-12頁。
- 「英京訪書記——トルコ語写本調査で感じたこと」『明日の東洋学』第5号，
2001年3月31日，2-3頁。
- 「水の都イスタンブル」『地中海学会報』第243号，2001年10月2頁。
- 「奴隷も大臣になれた国——オスマン帝国（悠久の時のなかで——歴史の話）」，
東洋文化研究所（編）『アジアを知れば世界が見える』小学館，2001年12
月10日，202-213頁。
- 「イスタンブルの居酒屋」『アル健協 News & Reports』第7巻第3号，2001年
11月。
- 「君府菜時記（3）野菜と野菜料理」『世界史のしおり』第11号，2002年1月25
日，12-14頁。（実際には（4））

「トルコ・朝食の情景（カラー企画：世界の食の情景（2）」『Vesta』45, 味の素の文化センター, 2002年2月1日, 49-57頁。

「オスマン帝国と民族問題の起源」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ 中央ユーラシア調査会報告集』財団法人アジアクラブ, 2002年3月31日, 92-95頁。

「君府菜時記（5）魚」『世界史のしおり』第12号, 2002年4月15日, 17-18頁。

「後期イスラームにおける食の文化と食の作法——伝統と変容」『イスラームとは何か——「世界史」の視点から』藤原書店, 2002年5月30日, 262-269頁。

「祝祭都市イスタンブル（イスラーム世界の祭りと暦——イスラームの祭り）」地中海学会（編）『地中海の暦と祭り』刀水書房, 2002年6月14日, 140-141頁。

「イスタンブール都市物語——栄華と落日 千年の歴史を刻む三帝国の都」『週刊朝日百科 世界100都市——東洋と西洋の出会いの街イスタンブール』第8巻, 通巻1358巻, 2002年1月20日, 6-8頁。

「絹の道と香料の道の交わるところグランド・バザール」『週刊朝日百科 世界100都市——東洋と西洋の出会いの街イスタンブール』第8巻, 通巻1358巻, 2002年1月20日, 9頁。

「ハレム秘話——トプカプ宮殿の秘められた世界」『週刊朝日百科 世界100都市——東洋と西洋の出会いの街イスタンブール』第8巻, 通巻1358巻, 2002年1月20日, 14-15頁。

「研究者が語るトルコ魅力」『東京大学新聞』第2200号, 2003年1月1日, 2頁。

「君府菜時記（6）飲み物」『世界史のしおり』第13号, 2003年1月15日, 13-14頁。

「暮らしが育てるまちと景観——アジアとヨーロッパが交差する都市・イスタンブール」『地域開発ニュース』277, 東京電力営業部, 2003年3月, 28-31頁。

「グローバリゼーションの歴史的起源を明らかにする書」J.M. ロバーツ著, 訳

『(図説) 世界の歴史』第6巻『近代ヨーロッパ文明の成立』日本版監修あとがき, 創元社, 2003年6月20日, 260-269頁。

「トルコの食文化」Ajico News, 第209号, 2003年6月, 9-14頁。

「トプカプ短剣」秘話』『アナトリアニュース』第108号, 日本・トルコ協会, 2003年8月, 22-24頁。

「君府業時記(7) トルコ食文化のなかの米」『世界史のしおり』第21号, 2003年9月5日, 18-19頁。

「オスマン帝国の威光——スルタンの権力と富(特集:文明の十字路 イスタンブル——トプカプ宮殿の至宝)」『季刊文化遺産』16, 島根県並河萬里写真財団, 2003年10月20日, 4-7頁。

「トルコ料理の粋(特集:文明の十字路 イスタンブル——トプカプ宮殿の至宝)」『季刊文化遺産』16, 島根県並河萬里写真財団, 2003年10月20日, 65-66頁。

「イスタンブルのスルタンの豪奢」『地中海学会月報』第269号, 2004年4月, 3頁。

「オスマン帝国と東アジア諸社会: 知と権力の担い手の比較考察」『東アジア傳統時代のエリート——比較史的接近』成均館大学東アジア学術院・東京大学東洋文化研究所, 2004年11月5日, 73-76頁。

「オスマン情緒と明治情緒」『シンポジウム 「イスタンブルをめぐる日本とトルコの関係史と旧日本総領事館」 2006年12月2日 報告書』日本トルコ交流協会, 2007年5月31日, 16-23頁

「イスラムについて考える」『行政研修ジャーナル』第38号, 2007年, 31-49頁。

「東洋と西洋の接点 イスタンブル第1回帝都イスタンブルとトプカプ宮殿」『EURASIA』176, ユーラシア旅行社, 2007年5月5日, 12-13頁。

「東西交通の海陸の大動脈とオスマン帝国」『波濤を超えてシルクロード』専修大学公開シンポジウム実行委員会, 2007年6月, 10-11頁。

- 「東洋と西洋の接点 イスタンブル 第2回モスクとムスリムの街づくり」
『EURASIA』177, ユーラシア旅行社, 2007年6月11日, 14-15頁。
- 「東洋と西洋の接点 イスタンブル 第3回グランド・バザールとスパイス・
バザール」『EURASIA』178, ユーラシア旅行社, 2007年7月5日, 14-15頁。
- 「トプカプ宮殿の至宝とその背景」『アナトリアニュース』第120号, 日本・トルコ協会, 2007年8月, 12-15頁。
- 「イスラム世界と百科事典」『百学連環——百科事典と博物館学の饗宴』印刷博物館, 2007年9月, 24-31頁
- 「比較史への思いを高めた史書——『戦史』——トゥキディデース著——」『東京大学新聞』第2417号（通巻3517号）, 2008年3月22日, 5頁
- 「英京訪書記——トルコ語写本で感じたこと」東京大学東洋文化研究所編『アジア学の明日にむけて』白峰社, 2008年3月28日, 246-251頁（『明日の東洋学』第5号, 2001年3月31日刊の再録）。
- 「イスラム世界の知の集積体——イスタンブルのスレイマニエ図書館」『（財）中近東文化センター附属三笠宮記念図書館 News Letter』第5号, 2008年4月1日, 1-2頁
- 「トルコの社会と食の「西洋化」の転換点——「西洋の衝撃」への応答（特集：変わりつづける『世界の食文化』）」『Vesta』74, 味の素食の文化センター, 2009年5月1日, 42-44頁。
- 「万国喫茶往来（第6回）トルコのコーヒー文化とコーヒーハウス——オスマン時代から共和国時代へ」『季刊民族学』33-4（130）, 国立民族学博物館, 2009年10月30日, 55-78頁。
- 「トルコ：新大陸からの渡来食材としてのトウガラシ」山本紀夫（編著）『トウガラシ讃歌』八坂書房, 2010年4月25日, 77-85頁。
- 「マントウ——トルコ・ギョウザとその背景（トルコ）（特集：世界の餃子とその仲間）」『Vesta』83, 味の素食の文化センター, 2011年8月1日。

- 「シンポジウムトルコから世界へ発信されたもの——トルコ料理は世界三大料理か? (特集: 日本とトルコ友好のかけ橋——エルトゥールル号回顧展)」鈴木董・大蔵雄之助・今川香代子他 (談)『アナトリアニュース』第121号, 日本・トルコ協会, 2008年1月, 15-21頁。
- 抄訳と解説「オスマン帝国のフランス革命認識 (18世紀末)」『世界史史料』第8巻『帝国と各地の抵抗 I——南アジア・中東・アフリカ』歴史学研究会 (編), 岩波書店, 2009年10月29日, 112-113頁。
- 「ドルマバフチェ宮殿の歴史」どんぐりはうす編『ドルマバフチェ宮殿』日本トルコ交流協会, 2011年9月1日, 4-7頁。
- 「イスラム世界の歴史を追う」『一個人——特集イスラム教入門』第140号, 2011年11月26日, 78-80頁。

8. 書評・文献紹介

- 「読書案内——『ナスレッディン・ホジャ物語』護雅夫訳, 平凡社東洋文庫38, 1965年」地中海学会『地中海学会月報』第22号, 1979年9月, 8頁。
- 「ホサム著／護雅夫訳『トルコ人』」『季刊東西交渉』第6号, 1983年7月27日, 42-43頁。
- 「〈基本文献ライブラリー2〉現代トルコ理解のために」『Maydan』第2号, 1984年10月, 14-15頁。
- 「読書案内: 羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究 (歴史と展望)』東京大学出版会, 1991年, vii + 363頁, 定価5800円」『地中海学会月報』第143号, 1991年10月, 8頁。
- 「『地中海 I 環境の役割』フェルナン・ブローデル著」『東京新聞』第17778号, 1992年1月18日 (日), 第10面, 『中日新聞』と同時掲載 (月刊『機』第14号, 藤原書店, 1992年第3号, 12-13頁に転載, さらに『書評集・ブローデル著『地中海』』9-10頁に転載)。

- 「アナル派不朽の名著——地中海世界を統一把握：フェルナン・ブローデル著，浜名優美訳『地中海』I」月刊『機』通巻14号，藤原書店，1992年3月，12-13頁。
- 「アナル派不朽の名著——地中海世界を統一把握」『書評集『地中海』』藤原書店，1992年5月30日，9-10頁。
- 「アンドレ・クロー著，浜田正美訳『スレイマン大帝とその時代』」『東京新聞』第17941号，1992年7月5日（日），第10面，『中日新聞』と同時掲載。
- 「紹介：羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究（歴史と展望）』東京大学出版会，1991年，定価5974円」日本オリエント学会『オリエント』第35巻第1号，1992年9月30日，196-197頁。
- 「読書案内：ラルフ・S・ハトックス著，斎藤富美子・田村愛理訳『コーヒーとコーヒーハウス』同文館，1993年」『地中海学会月報』第164号，1993年11月，8頁。
- 「近代西洋の衝撃にイスラームは如何に応えたか——政治理論・イスラーム法理論の地平から——小杉泰著『現代中東とイスラーム政治』」『図書新聞』第2197号，1994年5月14日（土），2頁。
- 「私のベスト3（トゥーキュディデース『戦史』，ヨハン・ホイジンガ『中世の秋』，イブン・ハルドゥーン『歴史序説』）」東京大学新聞社『東京大学新聞「読書特集号」』第1939号通巻第3039号，1996年10月22日，4頁。
- 「オスマン帝国の組織とエリート研究の道程にて——わたしの5冊 51」中東調査会『中東研究』438号，1998年5月10日，26-30頁。
- 「地中海世界を統一把握する」藤原書店編集部編『『地中海』を読む』藤原書店，1999年12月25日，175-180頁。
- 「自著を語る21『オスマン帝国の解体——文化世界と国民国家』筑摩書房，2000年5月，238頁，660円」地中海学会『地中海学会月報』第232号，2000年9月，6頁。

「自著を語る」『東洋文化第91号 特集——オスマン帝国史の諸問題』『日本トルコ交流協会ニューズレター』第7号, 2011年10月1日, 7頁。

9. 機関史・部局史項目

「第16編 東洋文化研究所 第5節 西アジア部門」『東京大学百年史 部局史』第4巻, 東京大学出版会, 1988年3月1日, 362-369頁。

「Ⅱ 資料編 1 職員」『東京大学東洋文化研究所の50年』東京大学東洋文化研究所, 1991年11月19日, 119-163頁。

10. 辞典項目

『イスラム事典』監修 日本イスラム協会 嶋田襄平 板垣雄三 佐藤次高, 平凡社, 1982年。

「イブラヒム・ミュテフェッリカ」「エヴリヤ・チェレビー」「カーヌーン」「カラギョズ」「キヤーティプ・チェレビー」「宮廷」「キョプリュリュ家」「ナイマ・エフェンディー」「ハンマ・プルクシュタル」

共編著『エナジー小事典第八号 地中海小事典』エッソ石油株式会社広報部, 1986年12月。

「アヤソフィア」「イェニチェリ」「イズミル」「エヴリヤ・チェレビィ」「エディルネ」「オスマン帝国」「コンスタンティノープル」「書道」「スレイマニエ」「スレイマン1世」「隊商」「トプカプ宮殿」「バザール」「ハレム」「ビザンチン帝国」「羊」「ブルサ」「マドラサ」「メフメット2世」「浴場」「レパント海戦」「小年表」

『事典・イスラームの都市性』板垣雄三, 後藤明編, 亜紀書房, 1992年5月31日。

「巨大帝国の中心都市：イスタンブール（オスマン帝国）」「都市のエスニティ：トルコのユダヤ教徒」「都市の名士：トルコ」「神秘主義教団と都市：トルコ」「トルコ・バルカンの都市：ブルサ」「地理書・旅行記に見る都市：

エヴリヤ・チェレビにみる都市」

『100問100答世界の歴史2 中東・アフリカ』歴史教育者協議会（編），河出書
房新社，1992年7月25日

「イスタンブルはトルコ語か」「イタリア・ルネサンスの芸術家たちのパトロン
だったトルコ皇帝」「トルコ帽はトルコの帽子か」

『地中海辞典』地中海学会編，三省堂，1996年5月25日

「イエニチェリ」「イズミル」「エヴリヤ・チェレビィ」「エディルネ」「オスマ
ン帝国」「書道」「スレイマニエ」「スレイマン1世」「隊商」「トプカプ宮殿」
「ハギア・ソフィア」「バザール」「ハレム」「ビザンティン帝国」「羊」「メ
フメット2世」「浴場」「レバント海戦」

『歴史学事典』第3巻『かたちとしるし』弘文堂，1996年7月15日

「サイン（アラブ・トルコ世界の）」「文字（アラビア文字）」

『角川世界史辞典』角川書店，2001年10月10日

「アスケリー」「アブドゥルラフマン＝シェレフ」「アフメト1世」「アフメト3
世」「アフメト・ヴェフィク・パシャ」「アフメト・ハーシム」「アフメト・
レフィク」「アリー・パシャ」「イエニチェリ」「イブラヒム・パシャ」「ヴェ
カイ・ハイリエ」「ヴァカニユヴィス」「エヴリヤ・チェレビ」「オスマン
2世」「オスマン朝」「オリエント急行」「カーヌーン」「カプクル」「カプ
ダン・パシャ」「カプ・ハルク」「ガラタサライ・リセ」「キヤーティプ・チェ
レビ」「ギュルハネ勅令」「キョプリュリュ家」「コチ・ベイ」「サダーレッ
ト・ケトヒュダース」「サライ」「サルナーメ」「ジェヴデト・パシャ」「ス
ルタン・カリフ制」「スレイマン1世」「セラニキー」「セリム1世」「セリ
ム3世」「タシュキョプリュザーデ」「テルジュマン」「チャンダルル家」
「チューリップ時代」「ディヴァーン・ヒュマユーン」「デヴシルメ」「デフ
デルダル」「トゥーラ」「ナイーマー」「ニザーム・ジェディト」「ニシャン
ジュ」「ネヴェシェヒルリ・イブラヒム・パシャ」「ビュズベグ」「パシャ」

「ヒュスレヴ・パシャ」「ヒュセイン・ラフミー」「ファト・パシャ」「フェリドゥン・ベイ」「ブルサ」「マフムト2世」「マフムト・パシャ」「マフラス」「ミッレット」「ムハマンド常勝軍」「ムラト4世」「メジェツレ」「メフメト2世」「メフメト・スレイヤー」「メフメト・ターヒル」「ラティーフィー」
『岩波イスラーム辞典』 岩波書店, 2002年2月20日
「イスタンブル」「オスマン朝」「カプクル」「御前会議」「書誌」「石版本」「大宰相府」「パシャ」「ルター」
『この1冊で世界がわかる宗教のキーワード集』 三木紀人・山形孝夫(編), 学燈社, 2005年12月20日
「ウラマー」「ウンマ」「クルアーン」「ジハード」「シャリーア」

11. 外国語論文

- “The Traditional Origin of Secular Intellectuals in the Ottoman Empire”, Yamamoto Tatsuro, ed., *Proceedings of the 31st International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa*, Vol. II, 1984, p. 732.
- “Osmanlılarda Organik bir Yapı olarak Toplum Görüşünün Gelişmesi: Osmanlı Sosyal Düşünce Tarihinin bir Yönü”, *Gelişme Dergisi*, Vol. XIV, No.4, 1987, pp. 373-396. (オスマン・トルコ社会思想の一側面)『イスラム世界』第14号の改訂土訳)。
- “Process of Traditionalist Revolution in the Ottoman Imperial Capital: An Attempt of Politico-Sociological Analysis”, *The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam (ICUIT) 22-28/October/1989*, Vol., V Supplement, 1989, pp. 219-228.
- “The Governance Structure of the Ottoman Empire: A Comparative Historical Analysis”, *Senri Ethnological Studies*, 25, 28/12/1989, pp. 133-153. (梅棹忠夫・松原正毅編『統治機構の文明学』中央公論社, 1986年所収「オスマン

帝国の統治機構——比較史的分析」の英文版)。

“Kanunî Sultan Süleyman'ın Vezirazamları ve Vezirleri: Tanınmış Siyasî Şahsiyetler Tarihi bakımından bir İnceleme,” *V. Milletlerarası Türkiye Sosyal ve İktisat Tarihi Kongresi Tebliğleri*, Ankara, 1990, pp. 885-888.

“Negotiation Behavior of the Ottoman Empire: A Case Study of the Methods of Conflict Resolution of an Islamic State,” International Research Center for Japanese Studies, *Kyoto Conference on Japanese Studies*, Vol.I, 1995, pp. 231-236.

“Osmanlı'da İdarî Geleneğin Teşekkülü ve Tatbikatı, Prof. Dr. Mehmet İpşirli üzerine Müzakere,” *XV. ve XVI. Asırları Türk Asrı Yapan Değerler*, Ensar Neşriyat, İstanbul, 1997, pp. 226-228.

“Fatih Mütevellisi Olan Vezirazam Piri Mehmed Paşa ve Onun Osmanlı Vezirleri Tarihindeki Yeri,” *II. Uluslararası İstanbul'un Fethi Sempozyumu - İstanbul, 30-31 Mayıs - Haziran '97*, İstanbul Büyükşehir Belediyesi Kültür İşleri Daire Başkanlığı, 1997, pp. 192-195.

“Kanunî'nin Vüzerâsı'ndan Koca Kasım Paşa'ya Dair,” *Güney Doğu Avrupa Araştırmaları Dergisi*, Vol. XII, İstanbul, 1998, pp. 311-318.

“*Fransa Sefaretnamesi*” Müellifi Yirmisekiz Çelebi Mehmed Efendi' nin Hayatına Ait Bazı Noktalar Üzerine,” *XIII. Türk Tarih Kongresi Bildiri*, Ankara, 2000, pp. 1121-1124.

“World Order, Political Unit, Identity: The Phenomenon of the “Nation State” in Comparative Perspective,” USUKI Akira, ed., *State Formation and Ethnic Relations in the Middle East*, Osaka, 2001, pp. 1-9.

“From Central Asian Studies to Anatolian Studies: A Century of Turkish Studies in Japan,” *Orient*, 38, 2003, pp. 117-134.

“Japonya'da Batı Asya Tarihi Araştırmalarının Gelişimi,” *Role and Place of the*

Turkic Civilization among the World Civilizations, Bishkek, October 4-6, 2004,
Bishkek, 2005, pp. 577-583.

“From Ottoman Literati to Modern Turkish Intellectuals,” *Proceedings of the
Tobunken International Symposium on Elites in Asian History=Social Network
and Cultural Representation, February 18-19, 2006,* Institute of Oriental
Culture, The University of Tokyo, March 2006, pp. 75-78.